

今金町の台所事情

発行：役場 総務財政課 財政管財グループ

令和７年度一般会計決算額の状況

歳出 73億6, 323万円

①人件費　8億 6, 091万円
職員の給与や議員、委員の報酬など

②扶助費　5億 4, 314万円
認定こども園運営費、各種医療給付費、児童手当など

③公債費　8億　325万円
町の借金の返済金

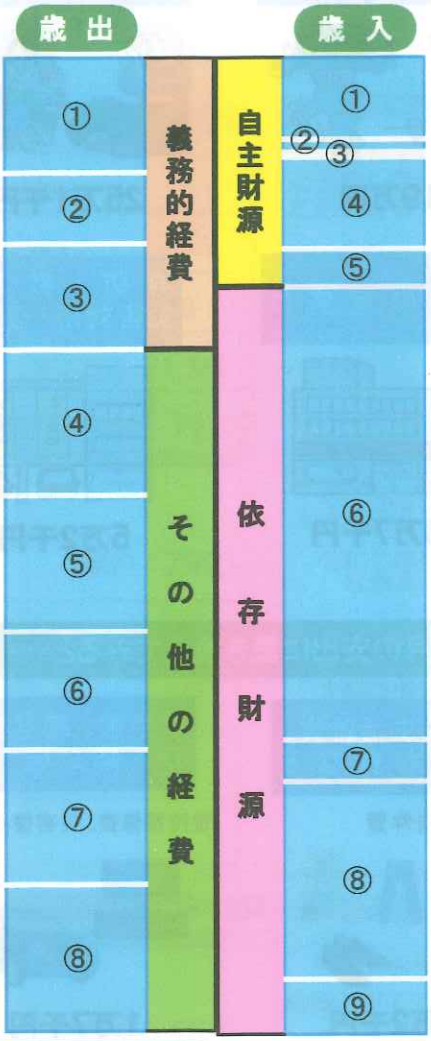
④建設事業費　10億 8, 762万円
道路整備や施設建設など

⑤物件費　10億 3, 451万円
消耗品費、旅費、光熱水費、委託料、備品購入費など

⑥補助費　9億　121万円
各種補助金や消防署、衛生センター等に対する補助など

⑦繰出金　10億 1, 845万円
病院、老健、下水道、簡易水道、介護保険など特別会計への支出

⑧その他　11億 1, 414万円
維持補修費や積立金(貯金)、災害復旧費など



歳入 74億2, 251万円

①町税　6億 1, 997万円
住民税、固定資産税、入湯税など

②使用料・手数料　9, 135万円
公営住宅、公共施設の使用料など

③負担金　4, 675万円
事業にかかる受益者負担金など

④繰入金　7億　32万円
基金(貯金)の取り崩し

⑤諸収入　2億 9, 241万円
財産収入、寄付金、前年度繰越金など

⑥地方交付税　34億 4, 859万円
標準的な町の財政規模を定め、不足するお金が国から交付されます。

⑦譲与税・交付金　3億 1, 442万円
国に納めた税金の一部が一定のルールで交付されます。

⑧国・道支出金　14億 8, 920万円
道路や施設の建設に伴う補助金など

⑨町債　4億 1, 950万円
建設工事など大型事業を行うときの町の借金

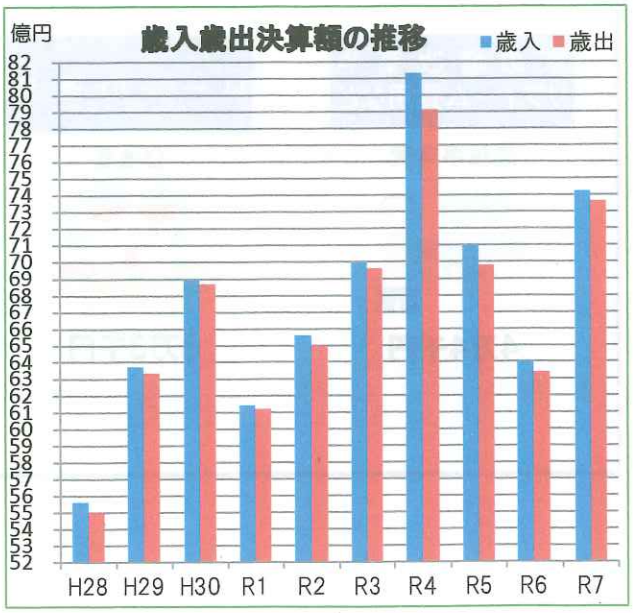
実質収支額４，６７６万円の黒字決算

歳入歳出差引残額5,928万円から、翌年度繰越財源1,252万円を差し引いた、4,676万円が実質収支額となりました。このうち2,476万円を基金(貯金)に積み立て、2,200万円を翌年度へ繰り越しました。

歳入総額74億2,251万円（前年度比10億2,234万円、16.0%増）、歳出総額73億6,323万円（前年度比10億2,581万円、16.2%増）となっています。

増額の主なものは、町債の返済に充てるための基金の積み替えや建設事業費の増が挙げられます。

【お知らせ】
〝入湯税の使途〟については、クアプラザピリカの施設維持管理経費に使用しております。



町の決算を町民1人あたりに例えると・・・

※今金町の人口：4，２８６人
（令和８年３月３１日現在）

町民1人あたりの決算額 １７１万８千円

前年度１４４万４千円
（２７万４千円の増）

● 分野別の町民1人あたりの町民サービス費用は？

福祉の充実に



33万3千円

健康づくり・環境保全に



19万円

産業の振興に



25万1千円

道路・住宅整備に



21万5千円

教育・文化の振興に



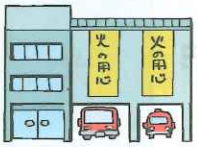
13万9千円

借金の返済に



18万7千円

消防・救急、災害対応・復旧に



5万2千円

役場・議会の運営、住民活動に



35万1千円

● 月収30万円の家庭での1カ月の支出に置き換えてみると・・・

食費、医療費、保育料など

人件費、扶助費など



5万7千円

衣類や生活雑貨、光熱水費など

物件費



4万2千円

車や家、家電などの修理費

維持補修費、災害復旧費など



1万7千円

交際費、習い事、保険料など

補助費等



3万7千円

家の増改築やリフォーム費用など

建設事業費



4万4千円

ローンの返済

公債費



3万3千円

子どもの学費や仕送り

繰出金、貸付金



4万2千円

貯金

積立金



2万8千円

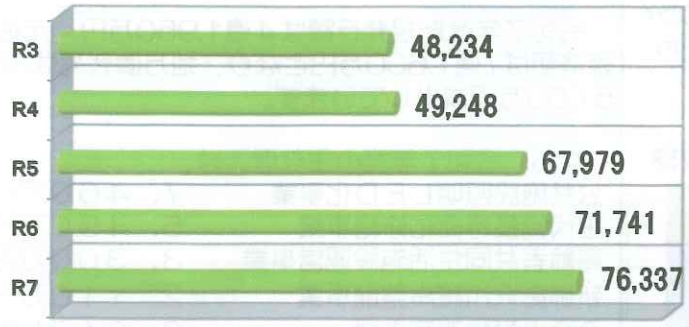
★各種基金について　【一般会計分】

町もいざというときのために、『基金積立（貯金）』をしています。税収が急に落ち込んだり、災害に備えるものや、将来の大きな事業をするためのものなど、いろいろな目的をもった貯金があり、計画的で健全な財政運営を行うために、できるかぎり『貯金』を残しています。

● 各種基金(貯金)の推移は？

① 財政調整基金

（単位：万円）



財政調整基金とは・・・

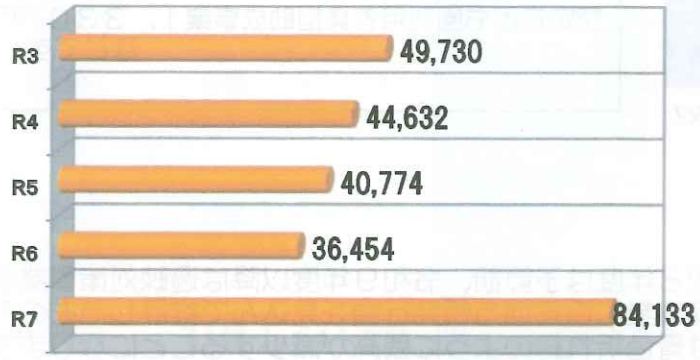
災害発生等による不時の支出増加や経済不況による予期しない収入減少などに対応する財源に充てるための貯金です。

令和７年度末現在高は、
７億６，３３７万円となっています。

前年度比 ４，５９６万円増加しました。

② 減債基金

（単位：万円）



減債基金とは・・・

町には地方債という借金があり、これを計画的に返済に充てるための貯金です。

令和７年度末現在高は、
８億４，１３３万円となっています。

前年度比 ４億７，６７９万円増加しました。

大幅な増加の要因は、今金中学校改築事業で借りた地方債の返済に充てるために、公共施設整備基金から積み替えを行ったことによるものです。

③ その他基金など

（単位：万円）



その他基金とは・・・

公共施設整備や地域活性化など、特定の目的のため積み立てている貯金です。

- 公共施設整備基金
- 国営緊急農地再編整備事業負担金支払基金
- ふるさと創生基金
- 認定こども園いまかね施設営繕等基金
- 地域福祉基金
- 生活交通路線確保対策基金
- まち･ひと･しごと総合戦略基金
- 北海道備荒資金組合積立金　　など

令和７年度末現在高は、
２８億７，４５８万円となっています。

前年度比 ５億４６７万円減少しました。
大幅な減少の要因は、今金中学校改築事業で借りた地方債の返済に充てるために、公共施設整備基金から積み替えを行ったことによるものです。

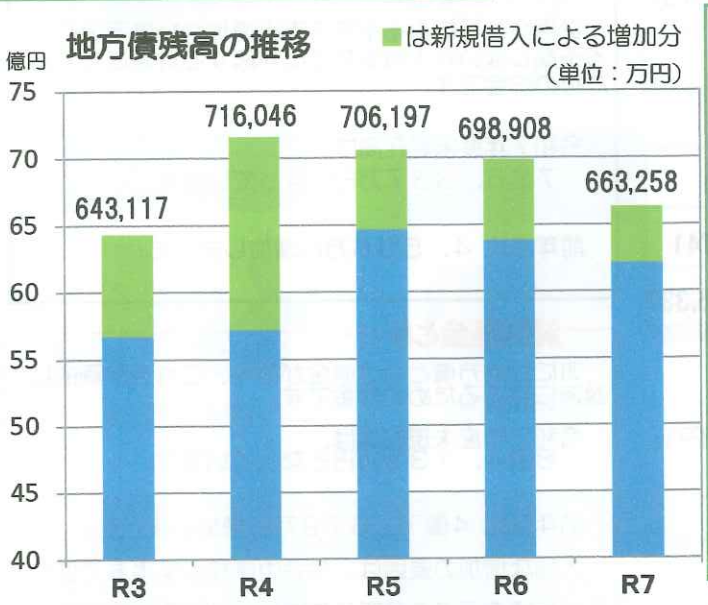
★地方債について　【一般会計分】

道路整備や公共施設の建設といった大型事業を行うときは、ローンを組む場合があり、これを地方債といい、国や銀行などから資金の融資を受けます。

公共施設等は将来にわたり町民が利用されることから、世代間負担の均衡を図っています。

なお、過疎債は返済金の７割が地方交付税で補てんされるなど、有利な地方債を活用しており、令和７年度末の地方債残高66億3,258万円のうち、国が負担する措置額は55億3,882万円が見込まれ、本町が差し引き負担する額は10億9,376万円を見込んでいます。

● 地方債残高はどのくらいある



令和７年度新規発行額は４億1,950万円、元金の返済額は7億7,600万円となり、地方債残高は3億5,650万円減少しています。

なお、令和７年度の主な借入は、

公共施設照明ＬＥＤ化事業	７，４６０万円
田代橋長寿命化修繕事業	５，４９０万円
高齢者共同生活施設運営事業	３，３００万円
新御影沢川護岸整備事業	２，１１０万円
今金中学校改築事業	２，０１０万円
避難所環境整備事業	１，３６０万円
高齢者等福祉対策事業	１，４２０万円
子ども医療費助成事業	９００万円
認定こども園利用者負担助成事業	１，３３０万円

などです。

● 今後の地方債残高はどうなる

赤色折れ線については、地方債発行額を令和８年度は予算額、令和９年度以降は過疎対策事業債を毎年２億円として、この他に国営農地再編整備事業に係る地方債発行額を見込んで推計したものです。また、仮に地方債発行が０円とした場合は青色折れ線のように残高が減少することになります。

